

お客様からよく頂く 13のQ&A

- ☆ Q1. 新しくなった次亜塩素酸ナトリウムが便利って？
- ☆ Q2. 「うち、もう同じの使ってるから」と断る方は要注意！勘違いしてますよ！
- ☆ Q3. 有事の時のためにも、少量でも備蓄しておくことがとても大切 です
- ☆ Q4. 製造元が“製薬会社”であることの重要性
- ☆ Q5. 高価じゃない！経済的！機能的！
- ☆ Q6. 便利！希釈せず(薄めず)にそのまま使えます！

- ☆ Q7. 問題が起きた時の経済的・イメージ的損失は大きい！
- ☆ Q8. アルコール消毒剤の大量備蓄は危険？
- ☆ Q9. 他の塩素系消毒剤にはまだ様々な問題が解決できていません
- ☆ Q10. シュフレクイックの使用方法について……安全なのか……？
- ☆ Q11. 次亜塩素酸の消毒力は、アルコールの3倍ぐらいと考えていいですか？
- ☆ Q12. 詰替えの際は市販の安い容器を買って使用しても大丈夫ですか？
- ☆ Q13. ウイルスの感染経路を 様々なケースでイメージしてみましよう

※ 本項は弊社ホームページの『Q&A』の掲載されている内容の一部です。
ホームページではPDFファイル形式になっておりますので、ご自由にダウンロードしてください。

「シュフレブランドサポートページ」 <http://www.syufre.jp/>

【次亜塩素酸ナトリウムが新しくなり、手軽で大変扱いやすくなりました！】

Q1. 次亜塩素酸ナトリウムが新しくなったとはどういうことですか？

濃度が違うのですか？ 単に新しい商品ができたということですか？

次亜塩素酸は昔からあるもので、製品の特徴も十分知ってるので今更特に興味はありませんが…。

A1. 現在お使いの(従来の)次亜塩素酸ナトリウムは全て“弱酸性”で“不安定な成分”です。いかがでしょうか？

新しい次亜塩素酸ナトリウムは“弱アルカリ性”で“安定した成分”なのです。

この成分で製品化できるようになったことが大変画期的なことで、これまで様々な問題があって扱いづかった次亜塩素酸ナトリウムが、日常的に大変手軽に使用できるようになったのです。

これからの衛生管理の現場で間違いなく主役となる本製品の特徴を是非お知り置き下さいませ。

凄いワケはココ！

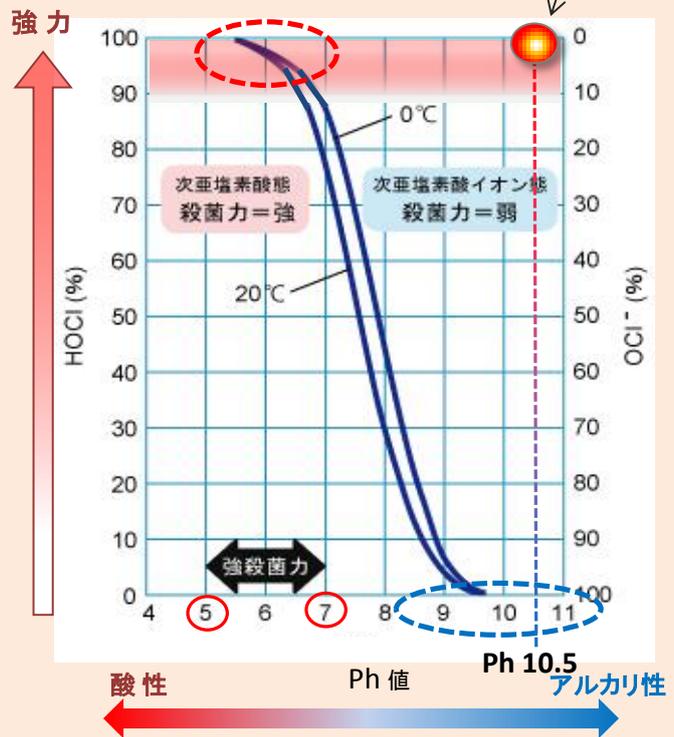
通常(既存)市販の次亜塩素酸ナトリウムのPH値は5.0～7.0の間の弱酸性成分です。

右のグラフでもあるとおり、PH値5.0～7.0の間では高い消毒力がありますが、アルカリ成分になると消毒力はほとんどなくなってしまいます。

ところが、シュフレクイックは10.5という高いPH値の弱アルカリ性分でありながら、その消毒力は弱酸性の5.0～7.0のPH値と同等の消毒力があります。この性能が画期的で、“新しい”特徴です。

PH値の低い酸性域では高い消毒力がある分、金属の腐食や繊維製品の漂白作用があり、不安定であるため分解しやすく、長期保存ができません。また強い塩素臭とともに塩素ガスを発生するリスクも有ります。

しかし、弱アルカリ性であることで金属を腐食せず、漂白作用も弱い。安定性分であるため分解しにくく長期保存ができるのです。



“Ph値 10.5 弱アルカリ性成分”でも強い除菌効果を発揮する『シュフレクイック』

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ☆ 弱アルカリ性だから → 金属腐食しにくい | ☆ 食品添加物指定成分 → 人に優しい |
| ☆ 塩素系なのに → → → 漂白しにくい | ☆ 薄める(希釈)必要なし → 手軽で便利 |
| ☆ 純粋成分だから → → 塩素ガスが発生しない | ☆ 無臭 → → → 店内のムードをKEEP |
| ☆ 純粋成分だから → → 安定 → 長期保存が可能 | ☆ 1本350mlで 1,150回噴射 → 経済的 |

Q2. うち取引先が決まってるので結構です。

それに、同じように金属腐食しない消毒剤使ってますので結構です(^)。

A2. **それ、本当に消毒剤ですか？ 消毒効果は本当にあるのでしょうか？**

世の中に情報は沢山ありますが、**面倒臭がらず**に情報は収集しておいたほうがよろしいかと思います。



**絶対に「同じもの」ではありません！
是非一度きちんと見比べてみてください！**

① 今お使いの“塩素系消毒剤”がもし「金属腐食させないモノ」というなら要注意ですよ！
それは、実は塩素系消毒剤に求められる消毒能力のないものです！

独特の消毒効果を発揮する塩素系消毒剤の消毒力の強さの特徴として、酸性成分が挙げられます。弱酸性成分は金属製品や金属部品を腐食させるほど強い薬品です。また繊維の漂白も然りです。またこの成分の特質としては「不安定さ」があり、すぐに有効塩素濃度が半減してしまいます。購入当初の有効塩素を数ヶ月もキープできないため備蓄に全く不向きな性質の消毒剤なのです。これらの問題をクリアした次亜塩素酸ナトリウムは、これまでの市販品には存在していません。「Q1」でも解説いたしましたが、現在の“弱酸性成分である塩素系消毒剤”で

①金属腐食しにくい、②漂白しにくい、③長期保存が可能、④有毒な塩素ガスを出さないなどと謳えられる消毒剤は存在しえません。そして**「弱アルカリ性成分でありながら、弱酸性成分と同様の強い消毒力も併せ持つ次亜塩素酸ナトリウムは、本製品以外にありません！
今一度きちんとお調べいただき、本製品と比較していただくことをお勧めいたします。**

② お取引先が決まっているので変えられないとおっしゃられる方へ

前述のとおり、本製品はまだどこにもない新しいタイプの消毒剤です。アルコール消毒で済むところにはあえて乗り換えを提案いたしませんし、無理に現在のお取引先の変更をご提案するものでもありません。また、ノロウイルスや新型インフルエンザなどを退治するだけなら今お使いの次亜塩素酸系消毒剤でもよろしいかと思います。

しかし、皆様の大切な設備環境を守りながらノロウイルスや新型インフルエンザなどを退治できる消毒剤は、この「弱アルカリ性 安定型次亜塩素酸ナトリウム」しかありません。

今回は全く新しい消毒剤の情報でありますので、是非ご興味を持ってお話し頂きたいと思っております。



③ 今使っている消毒剤より値段が高いのでは？とおっしゃられる方へ

「Q5」を参照下さい。決して大きな負担とならずにご利用いただけることがお分かりいただけます。但し本製品は今お使いの消毒剤とこの製品は別物なので、単純に価格で比較するものではないと思います。製薬会社で製造・調合・管理される本製品の品質をご理解いただき、既存のその他の消毒剤との違いが明確におわかりいただければきっとご理解いただける価格ではないでしょうか。

とはいえ、弊社はお客様のご利用の規模により商品価格はご相談に応じさせて頂いております。

【 有事の時のためには、少量でも常備しておくことが大切！ 】

Q3. 日常的に使っているアルコール系消毒液の方で大概間に合うと思う。
在庫もあるし、おまけに単価が安い。急いで全ての消毒剤を安定型次亜塩素酸ナトリウムに変える必要を感じませんが。

A3. 有事の時、例えばウイルス対策をしないといけなくなった場合、お客様（患者様）の汚物または嘔吐物の対応をしないといけなくなった場合に“有効な備え”がないと、迅速かつ効果的な対処ができません。

私共は本製品を、瞬時に対処できなかったことで他のお客様やスタッフ様に感染するというような先々の大きな損失に繋がるリスクを防ぐための“備え”として、ご提案をさせて頂いております。

価格表をご覧いくとお分かりいただけるかと思いますが、大きなロットでの在庫を抱えるような高額なご提案いたしておりません。まずは最小単位でも備えておければご安心かと思えます。危険物でもなく、本製品は長期の保存にも優れているので、有事のための備蓄品として最適です。



【 製造元が製薬会社！ 大洋製薬(株)による厳重な管理・製造が安心と大きな信用の裏付けに 】

Q4. 今までにこんなすごい商品の存在があったなんて知りませんでした。聞いたことがない。
この製品が本物なら凄いと思いますが、正直御社のことはわかりません。
この情報を信用していいのかわかりません。

A4. 「シュフレクイック」の製造元は大洋製薬(株)でございます。
本製品の「製品仕様書」も大洋製薬社が作成したものでございます。

また本製品の成分分析は全て国内の第三者機関による検証により評価されたものであります。社内だけでなく社外に対しても、信用ある製薬会社の製品を使用していることを堂々と回答できることがこの商品の強みでございます。

例えば、この製品が製薬会社で作られたものでなく、しかも全く名の知られてない社名のものであったとします。

「これ、どこで製造されてるものですか？」

とあなたが第三者に質問された時、どうお答えになりますか？

「〇△□社です。」と回答すると、

「……どこそこ？、信用できるの？」となりませんか？

弊社のシュフレクイックは

「製薬会社である“大洋製薬社”が製造元です」とお答えできます。

信用面で明快であるということはとても重要です。

弊社アクア(株)は、本製品のシュフレクイックの原料となる

「安定型次亜塩素酸ナトリウム」のメーカーであり販売元であります。



※写真はイメージ画像です

Q5. それだけ性能の良い次亜塩素酸ナトリウムなら値段が気になりますが…。

A5. **大変経済的です！**

350mlのシュフレイックのハンドボトルは、一回の噴射での噴射量は0.3mlです。

1本で 約 1,150回噴射できます。

(そもそも成分自体が違うので単純に金額や量で比較するものではないのですが…)

実は市販の消毒剤で使用されてる噴射型ボトルの一度の噴射量はだいたい1.0ml ~ 2.0ml と、少ないものでもシュフレイックの3倍以上の噴射量です。

そうみると、シュフレイックの1本は通常市販されてる同様の350ml消毒剤の3本分に相当するのです。実質的にはシュフレイックはさほど高価なものではないと思われませんか？

また、この専用ボトルではとても細かいミスト状に噴霧されるので、一度で満遍なく対象箇所に吹きかけることができます。他社製品は噴射量は多く、勢いがあっても粗いので、吹き付けてもムラがあり、意外にも何度も噴射せざるを得ません。

因みに「シュフレイック」はミスト噴霧で大変軽くなるため、空間除菌には最適です。



【 詰替え用10リットルBOXだと、1本単価がなんと約60%OFFに！ 】

10リットルBOXは、350mlボトル28本分となり、そのボトル1本分の価格がなんと半額以下相当となります。環境に優しくて、確実な消毒力を持つシュフレイックは、ムダな噴射量を抑えた大変経済的なハンドボトルは、他の製品と実質的な使用量に対しての価格を比較していただけるとご納得いただける内容となっております。また本製品はエタノール消毒剤と違い危険物ではないので安心して備蓄できます。5℃~40℃の間での保存環境であれば、約2年間の保存が可能です。



【 便利！ 希釈せず(薄めず)にそのまま使えます！ 】

Q6. このシュフレクイックは何倍に希釈して(薄めて)使えばいいのですか？

A6. pH値10.5 塩素濃度100ppmの本製品は、希釈をせず(薄めず)そのままお使いいただけます。
大洋製薬㈱で製造・調合されるシュフレクイックの有効塩素濃度は約二年間ほぼ変わりません。

困みに、

本製品以外の通常の次亜塩素酸ナトリウムは購入時の濃度がとても高く設定されております。

それを利用者は説明書の指示通り3倍とか5倍とかに薄めて使用します。しかしそれには問題があります。

< 問題1 > 通常の次亜塩素酸は日々有効塩素濃度が落ちていきます。4ヶ月後にはほぼ半減です。

いったい皆さんは濃度が既に半減してしまった液体を、何倍に薄めてお使いですか？

その都度その時の有効塩素濃度を計測して、その濃度に見合った希釈をして使用する方はほとんどいません。購入時の要領で希釈して使用してははずです。

< 問題2 > さて、希釈についてですが、皆さんは次亜塩素酸ナトリウムを希釈する際、何で希釈

されてますでしょうか？ こう質問すると、ほとんどの皆さんが「水道水」とお答え

になります。しかし実は次亜塩素酸ナトリウムは水道水で希釈してはいけません！

なぜなら、水道水には無数の雑菌が存在しています。水道水と混ぜあわせた途端、

次亜塩素酸ナトリウムは雑菌に反応してしまいその殺菌の役目を終えてしまいます。

肝心の消毒対象物に消毒効果を発揮できません。水道水で希釈した次亜塩素酸ナト

リウムの寿命はなんとたったの1日です。希釈する際は「精製水」でしましょう。

【 問題が起きた時に対処できなかった場合の損失は、とても大きい！ 】

Q7. 今までのアルコール消毒剤で特に問題なかったから特に必要を感じない。

A7. アルコール(エタノール)系消毒剤では新型インフルエンザやノロウイルスなどには全く効果がないのですが、大丈夫でしょうか？

逆に質問させてください。

① もし、ウイルスに感染してるお客様が嘔吐してしまった場合は、どのように対処されますか？

② 汚物・嘔吐物による二次感染(院内感染)の危険性が起きた場合、他のお客様(患者様)やスタッフの皆様をどう守りますか？

もしノロウイルスによる感染者が施設内から発生した場合、何日間の業務停止となることかご想像つきますか？

③ 経済的損失とその後の企業イメージはどれ程のものとなるでしょうか？

先々の大きな損失のリスクを考えると、少額・少量でもいざというときの対応の準備は整えておくべきでしょう。本製品は安全で長持ちなので、そのような備蓄用途としては最適です。

【アルコール消毒剤には“火気厳禁”のマークが！ 大量の備蓄は危険なんです！】

Q8. アルコール消毒剤は日常業務に欠かせないため、常に在庫として備蓄しています。
だからとりあえずそのままいいと思いますが。

A8. アルコール系消毒剤のほとんどが濃度は80%で、用器には「火気厳禁」マークが表示されています。
だからどなたのところでも保管に制限があるはず。大量に保存しておく、その倉庫は「危険倉庫」となってしまうため、特に病院など医療機関ではそういうことはしていないと思います。

とはいえ、備えはないといけないので、本音としては危険物でない安全な消毒剤があるならその製品を備蓄用としてお持ちになりたいきっとお考えなはず。

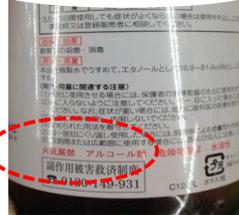
因みに、消毒用アルコールは「危険物」なので飛行機では運ぶことができません。

厚生労働省の某検疫所スタッフの方の話によりますと、もし機内をアルコール消毒した場合は、アルコール成分が残ったまま飛行するのは大変危険であるため、アルコール成分が完全に揮発するまでは飛ばせないとのことでした。

アルコール製剤は、消毒剤であるとともに、“危険物”でもあるのです。



某エタノール消毒剤(市販品)



某エタノール消毒剤(市販品)



アルコールウエットティッシュ(市販品)

【塩素水およびその他の次亜塩素酸では様々な問題が残ったまま】

Q9. 有事の際の消毒剤は今在庫として備えてある“塩素水”で対応しようと思います。

A9. 確かに塩素系消毒剤は確実にウイルスを死滅させてくれるでしょう。

しかしもしお客様（患者様）が嘔吐された場所が貴施設の大切な備品であるベッドやソファーもしくはカーペットだったとします。塩素系消毒剤で消毒してしまったために色落ちさせてしまったらどうしましょう？ 新たに備品を買い換えるのでしょうか？

もしも高価な精密機械を腐食させてしまったらその費用はどれくらいかかりますか？

もしも腐食により取替の工事が必要になるような手間のかかる箇所でしたらどうでしょうか？

買い換える手間と余計な費用のリスクを考えると、いくら消毒に有効とはいえ、従来の塩素系消毒剤を使用するには勇気が伴うものと思いますがいかがでしょうか？

【 シュフレクイックの用法について・・・安全なのか？ 】

Q10. このシュフレクイックは手の消毒や食品の消毒用として使用してもいいですか？

A10. 商品としてのシュフレクイックは「雑貨品」なので、基本的にはモノや機材、衣類や設備などの衛生・消臭の為に、そして汚物・嘔吐物などの危険物に対しての消毒にお使いください。しかし原料となります本“安定型次亜塩素酸ナトリウム自体”は食品添加物指定成分の製品であり弱アルカリ性成分なので、手やお肌に触れても害を及ぼすものではないので安心です。とはいえ、ご使用に際しては使用上の注意をよく読んでご使用ください。

【 次亜塩素酸の消毒力はアルコールの3倍くらいですか？ いいえ、そもそもが違います 】

Q11. シュフレクイックの消毒力はアルコール製品の何倍分に相当しますか？

A11. ウイルスなどは、その性質上アルコールでは破壊できません。そもそもが違います。

次亜塩素酸ナトリウムは、もちろん有効塩素濃度を上げれば当然ながらその効果は上がります。アルコール製消毒剤で消毒効果を発揮できない細菌・ウイルスにその濃度の濃さは全く意味をなしません。 そもそもの“効果の有無”という次元の問題となります。

例えば、動物の場合を例として挙げます。

パルボウイルスはアルコールでは全く効果はありませんし、昨今報道にある豚流行性下痢の原因菌であるコロナウイルスなども同様です。このようなウイルスに対して効果を得るのであれば有効塩素100ppmのシュフレクイックで十分に対処可能です。

対象となるものが明確であれば殺菌力の強さという前に「有効成分化」を見極める必要があります。単純な殺菌力の強弱を想像する前に、その点を確認してみたいはいかがでしょうか？

【 詰替えの際は市販の安い容器を買って使用しても大丈夫ですか？ 】

Q12. 備蓄用の詰替えタイプを購入して日常の消毒剤として使っていきたいと思っています。その際の容器ですが、ハンドスプレータイプやペットボトルタイプは市販されてるものや今現在別の消毒液を入れて使っているボトルを再利用しても問題はありますか？

A12. できる限り市販されてるボトルや、現在他の消毒剤を使用中の用器を使用することはお控えください。本製品の長期保存力の性能の条件には用器の要素も大きく関わりがあります。“可塑性”等が含まれてる市販の用器に移し替えて使用すると、製品の劣化が早まることになります。

【ウイルス感染の経路を様々なケースでイメージしてみましょう】

Q13. ウイルスの感染のイメージが湧きませんが…。

A13. 3つの例を挙げてノロウイルスや新型インフルエンザのケースをご説明しましょう。

< 学校や病院や厨房・レストランなど一般的な施設において >

ウイルスに感染してしまった人があちこち触ってしまうと、それをまた別の人が触ってしまったりとどんどん広がってしまいます。だから感染者が施設内にいたという事実が発覚すると、危ないなと心当たりのあるところは片っ端から全て消毒しないとイケません。さて、その時！消毒剤には何を使いますか？

< 食品加工工場など衛生面に常に注意してる施設 >

日常的に衛生面にシビアなので、施設内から食中毒菌が発生することはまず考えられないでしょう。しかしウイルスは違います。ウイルスは外から人によって運ばれて来ます。靴、衣類、食材搬入時の箱や機材などに付着したものから、便器に付着してしまった汚物や時には嘔吐物など、誰かを通して中に入ってきます。誰かが施設内に菌やウイルスを持って来るから施設内での伝染が始まります。その流れで食品にも触れ、その商品が出荷されると、いよいよ不特定多数の人の元へその食材と一緒に運ばれることとなります。だから一切妥協が許されません。靴やドアノブや籠など、手に触れる可能性のある設備や器具への対策用品としては、効果のないアルコール（エタノール）系消毒剤ではなく次亜塩素酸ナトリウムで人に触れる前に殺しておく、施設内に入り込む前に殺しておくという取り組みが必要です。

< 鳥インフルエンザのケースを考えてみましょう >

鳥インフルエンザのケースとしては、もし感染した鳥が施設内に発見されたらそこで消毒剤を撒けば菌やウイルスが逃げなくなる、というような簡単な問題ではありません。もしかかったとなったらもう施設内の鳥を全部殺してしまうことになってしまいます。感染経路としては、例えばたまたま飛来した渡り鳥が糞をしたり、すずめが窓から入って糞をしてしまってそこから広がるというケースなのでしょう。もし感染が発覚したらその段階で家畜はすべて残らず殺処分し、施設は内外と片っ端から消毒するので、その経済的損失は甚大です。しかしその時にこれまでの次亜塩素酸や塩素系消毒剤で消毒すると、施設自体を腐食してしまうという二次的経済損失まで起こしかねません。

< 結論 >

これら様々なケースを挙げてみておわかりいただけたことと思います。問題が起きる前に未然に防ぐ、もしくは有事の際の備えをしておくことはとても大切です。効果はもちろん重要ですが、余計な経済的損失を生むことのないよう、環境に安心な消毒剤を選ぶことがとても大切です。シュフレクイックは、確実な消毒効果だけでなく安全性と長期の保存性に優れた消毒剤です。